

南信州広域連合第9回広域連合会議 結果報告

日時：令和元年12月17日(火) 15:10～16:00

場所：県飯田合同庁舎301号会議室

【出席者】14市町村長、副管理者

〔南信州地域振興局〕土屋局長

〔飯田建設事務所〕代理リニア整備推進事務所小牧次長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔飯田広域消防〕赤羽目消防長・有賀消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長

櫻井次長補佐兼広域振興係長・秋山介護保険係長・宇佐美庶務係主事

1 開会…15:10

2 広域連合長あいさつ

3 協議・報告事項

(1) リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討について(資料No.1)【説明者：松江事務局次長】

本日、リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討委員会から連合長に意見・提案書が提出された。意見・提案書の内容について説明する。

この検討委員会は、「リニア時代に向けた新施設の整備に関する『基本的考え方』(案)」で示された今後検討を要する論点について議論をする。今年6月から11月まで4回の会議を開催。

検討委員会に課せられた検討項目は、立地条件、施設規模、利用形態の3項目だが、この他にも重要な議論があったので、その他事項として整理した。

*立地条件について

市町村から情報提供された10か所の候補地があるが、民間事業者と連携するということを考えると、民間事業者の考え方が大きく影響するので、委員会としては候補地の特定はしなかった。立地に当たっての基本的な考え方を整理した。

・リニア中央新幹線の利用も積極的に求めることを前提とした場合、アクセスの観点からリニア駅近郊における立地が望ましい。

・当地域の交通事情や来場者及び運営側の利便性の観点から、必要な駐車場等の確保が望ましい。

*座席数をはじめとする施設規模について

座席数は3,000人や5,000人といった議論もあったが、これについても民間事業者の判断が大きく影響することから特定の数字はあげていない。

・身の丈に合ったものとし、過剰な規模としないことが望ましい。

・この施設は地域住民も興行にも利用できることを考慮すると、メインアリーナはプロスポーツなどの興行を中心とした観る場所、サブアリーナは地域住民などがスポーツをする場所と位置付けることを基本とすることが望ましい。

*利用形態(興行主体か住民利用主体かなど)について

興行主体か住民利用主体かといった相反する考え方ではなく、この地域の子どもたちに本格的なスポーツに接する機会を提供し、地域のスポーツ文化の醸成につながるような施設利用を想定し整理した。

・市町村の枠を越えて子どもたちがスポーツのできる環境の提供と、子どもたちにレベルの高い本

格的なスポーツに接する機会の提供が望ましい。そのためには、新施設が地域の核となるスポーツを育てるという役割を果たすことが必要。こうしたことは、施設が整備されれば達成できるものではなく、プロスポーツのクラブチームの誘致など地域の盛り上がりと支えが重要であり、施設整備と連携してソフト面での取組みが必要になる。

・興行利用にあたっては、プロスポーツを軸にコンサートや大規模展示会など多目的利用が可能な施設が望ましい。

・本格的音楽鑑賞や中小規模の展示会等は、圏域内にある他の施設との連携も考慮して役割分担することが望ましい。

***その他事項について**

・新施設が本当に必要かどうかの根源的な議論は重要である。新施設の必要性の機運が広がっていないと感じられるため、地域全体で盛り上げていくことも重要である。

・参画いただける民間事業者の確保が最重要課題であり、運営側がどのように使おうとしているかも含めた議論が必要。民設民営の可能性はできるだけ追及すべきである。

・地域づくりを推進する構想（ビジョン）を策定することは必要である。ビジョンには、「スポーツを活かした地域づくり」を据えることを提案する。

・リニア開業後の状況を現時点で想定することは困難であるため、整備の時期についての検討も必要である。

連合長： 正副委員長に対して、この意見・提案書を広域連合としてしっかりと受け止めさせていただき、書かれた内容についての検討を広域連合として続けていくという話をさせていただいた。

(主な意見等)

豊丘村： 利用形態の中で、本格的音楽鑑賞とあるが具体的には何を指しているのか。

事務局次長： 検討委員会の議論の中では、音質を重視したもの。クラシックなど静かに座って聴くようなものをイメージしていたと思われる。

連合長： 本日は、この意見・提案書は広域連合として受け取らせていただいて、これから意見・提案書の内容も含めて新施設の検討を進めていくということで、集約をさせていただく。

(2) 南信州地域の高校の将来像を考える協議会の検討状況について（資料No.2）【説明者：高田事務局長】
12月12日（木）に第5回目の協議会が開催された。その内容について報告をさせていただく。また、その際に広域連合としてのこれからの進め方についても要望が出たので意見交換をさせていただきたい。

***南信州地域の高校の将来像について意見・提案（素案）の説明**

この地域の高校の現状と課題、今後の将来像についてどのような意見が出てきたか、目指す高校の将来像を実現するためという意見の内容について整理をした。

1ページ目から高校の現状ということで、生徒数、学級数の状況を記載。各学校で探究的な学び、信州学、地域との連携といった形でどのような特色ある取組みが進められているかというものが、2ページから6ページ上段まで記載。

6ページから南信州地域の県立高校教育の課題を記載。この地域は旧第9通学区になるが、中学校卒業生の将来予測は2019年3月と比べると、2034年まででトータル477人減り、7割になるという予測が出ている。今の高校進学状況は、この地域内の公立学校だけではなく他地区へ、あるいは他地区からという形でどのような進路があるかといったものを表に記載。

子どもの数が減っていくという実数が示された中で、この地域の将来像をどう考えていくのかが大きな課題。

7ページには、多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校の必要性について記載。今回この協議会では、多部制・単位制の機能についてしっかり議論をした。飯田OIDE長姫高校の定時制にそ

の機能を補完しようという意見でまとまった。

課題の4点目として地域と連携した学びの推進ということで、この地域の特色として地域人教育等があるわけだが、それを全体の学校に広めながら地域として必要な人材の育成がこれから大事。

南信州地域の高校の学びのあり方(将来像)については、生徒にとってより良い高校の学びのあり方、地域にとってどのような高校であってほしいかといった高校の学びのあり方という視点で出された意見を整理した。これらを踏まえて、目指す高校の将来像を実現していくためにということで、いくつか意見という形で整理をした。

9ページの(1)では、多様な生徒の生活・学習スタイルに応えるため多部制・単位制の機能を備えていくということで、この中では現在設置されている飯田OIDE長姫高校の定時制を活用して多部制・単位制の要素を取り込んだ柔軟な学びのシステムを構築してほしいということで、多部制・単位制の機能を飯田OIDE長姫高校の定時制にという形で具体的に整理をしているのが1つの特徴となっている。

地域と連携した学びの取り組みでは、飯田OIDE長姫高校で行われている「地域人教育」を定時制の中に多部制・単位制が入ればそこにも「地域人教育」が入る。地域全体、各学校でこういった取り組みをしていくことを望むと整理している。

もう1つの特徴としては、10ページの(3)で中長期的な課題に対する検討というものを整理した。この協議会は、県教育委員会が進めようとしている令和2年度から10年間の第2次再編計画についての意見・提案というものが原点にある。その中で、多部制・単位制の機能を飯田OIDE長姫高校にと具体的に言っているが、もう少し長いスパンで見た時のこの地域の課題についても検討が必要ということで、10ページの(3)として整理をした。この地域の県立高校だけではなくて、圏域内の私立高校も含めた8校が一丸となって取り組んでほしいということ、将来的には南信州地域においても再編整備が避けられない状況が予想されるため、来るべき時期に備え、機をとらえてこの南信州地域の高校の将来像についての議論を進めていく必要があると記載。こういう形でスパンを長くにとって、この地域で検討していく必要があるというふうに整理をした。

こうしたことについて、協議会の委員から幅広い意見を頂戴した。1つは、リニアが通るこの地域の特徴を踏まえて将来の高校のあり方をしっかり検討すべきという意見。もう1つは、子どもの数が減っていくということをどのように捉えて、この地域の高校がどうあるべきかということは今から検討をしていく。また、どのように検討していくかということも含めて、しっかり継続して行ってほしいという意見が出された。特に校長会の代表の方からは、高校としても一生懸命考えるが、子どもが外に出ていかないようにとか、魅力的なことをということは高校として考えられるが、この地域として高校はどうあったらいいかというのは学校側だけでは答えは出せないの、地域としてどのように考えていかしかりやってほしいという意見を頂戴した。

資料1枚目の裏面に「継続的な協議の場について」ということで、今回の協議会はあくまでも県へ今回の再編計画で要望することについてまとめるということなので、学校規模の縮小を見据えた中長期的な課題に対する新たな協議の場については、この協議会において決定できるものではないため、会長(広域連合長)が一旦引き取り、南信州広域連合会議にて議論することとしたので、今回この場で意見をいただきたい。

連合長補足：最後のところは、教育長が集まる協議会でもこの議論はしていかないといけないということで確認はされている。そうは言っても、第1次高校再編のときの議論の舞台になっていたのは広域連合であった。旧飯田工業高校と旧飯田長姫高校の統合を県の教育委員会に提案したのは広域連合ということも考えると、中長期的なことは広域連合が議論をリードして、学校の関係者等を集めた研究会等も必要になってくるかもしれないが、そういった議論を継続してやっていくことが必要。

こういった状況も踏まえた中で、意見を頂戴したい。まずは、協議会に参加している町村長から発言を。

松川町：教育委員会に向けての提案ということでこの形になったが、産業界からはもう少し人

材育成ということにも話を向けてほしかったという意見もいただいた。魅力ある高校づくりと言いながら具体的な話があり出てこない。実際に通っている子どもたちの声とかも聞けてない。今度は現場の高校生や親も交えながら話をしていくと良いと感じた。

阿南町 : 私の見識より今の時代は、定時制に生活苦で行っている子どもばかりではなく、障害や登校拒否などの子が多くなってきた中では、高校教育としてはこういった多部制・単位制というものを設けなくてはいけないのが現状。方向的には、今の飯田OIDE長姫高校の定時制にその機能を補完するということであるが、中長期的なことを含めて今の協議会を継続するのは難しいということで、広域連合でそういった議論をしていくしかないだろうと。

社会の変化の中でこういったことに対応していかなければならないというのは、教育界の考え方もあるし、大変な話になっているなど。

阿智村 : 協議会に参加し最初に思ったのが、高校統合のような議論になるのかなと覚悟して臨んでいた。この意見書にあるように現実的には厳しい状況ではあるが、もう何年かは現状で多部制・単位制など色々考えてやっていこうという結論になった。

10年後には3割減るので、もう待たなしの状況には来ているかなど。意見書にも地域外からも生徒が集まるような高校の魅力と書いてあるが、白馬高校は観光科を作り色々工夫をしている、当地域としても飯田下伊那管内から高校生が出ていかないようなことと、県外から飯田下伊那の高校に生徒が来るような工夫というのをしっかりと真剣になってやっていかなければいけないという提案なので、そんなことを含めて取り組んでいこうと思った。

(主な意見等)

根羽村 : 今後、協議会の中で出された単位制・多部制というのは多様な教育をするのに非常に重要だと思う。10年後に477人減るとあるので、今の段階からしっかりと協議を。今回は協議会の場でたまたま協議されたが、広域連合が中心になって色々な人が参加してこの協議は今から始めないといけない。

豊丘村 : 高校の生徒が都市部に流れていくというのは、職場がないとか魅力的ではなくて住む理由もないということで外に出て行ってしまっている。もちろん、高校としての切り口も非常に大事だが、この地域を考えるとリニア中央新幹線の開業とかあるので、これからの飯田下伊那のやり方が大事。都市部から人が来るような産業振興から始まって地域の活性化をしていかなければと思う。色々な魅力を作りながら日本中、世界中に発信をしていくという姿勢が大事。

高森町 : 協議の場として南信州広域連合が良いのか悪いのか。広域連合が中核となって全体をプロデュースしていくというのは非常に良いことだが、どうやって色んな人から意見を吸い上げるのかというところで、直結して関わっている先生方、子ども、保護者からどうやって話を聞くのかなどその形を上手く作らないと。私たちが言っても押し付けになってしまう。継続的に協議をしていくのであれば、その辺の話ができるような環境を整えた方が良い。

松川町 : ここまできちんとこういう場で議論されているのが、住民に伝わっていないと思う。地域人教育を受けた高校生とこういった協議をすると、高校生たちも関わっていないといけないという機運が醸成されると思う。しかし、広域連合の会議に高校の生徒会長を呼ぶというのはかわいそうかなど。こちら側からも出向いて、一緒に話すような場を設けるというのも大事。

連合長 : このことに関して意見があれば事務局まで言っていただきたい。今後の日程は、12月18日に飯田OIDE長姫高校定時制教育振興会に説明し、午後6時30分からエス・ボードで住民説明会をさせていただく。それぞれの意見をいただいて反映させ、12月25日の第6回協議会で意見書(案)を整理する。

(3) 飯田広域消防本部から（資料No.3）【有賀消防次長兼総務課長】

令和元年12月13日現在の火災状況について、火災発生件数93件、昨年同日比プラス23件。

年末に向け、12月中に大型店舗の立入検査と、12月18日から物品販売店及び飲食店における夜間立入、火災予防の呼び掛けを実施する。

12月1日から年末警戒を行っているが、12月25日からは年末特別警戒として強化していく。消防団と協力して、年末年始の安全安心の確保に努めてまいりたい。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(4) その他

「地域発元気づくり支援金」平成30年度優良事例表彰式の開催について【説明者：高田事務局長】

12月19日（木）に表彰式が開催される。

広域連合としての取組みで、「南信州移住促進事業」が優良事例ということで表彰を受ける。

→ 説明内容確認、質疑なし。

4 長野県

(1) 南信州地域振興局

*地域発元気づくり支援金の重点テーマについて

重点テーマについては、補助率のかさ上げが行われることにより、地域の取組みを誘発したいという狙いを持って設定しているもの。

全県統一テーマでは、信州ACEプロジェクトを1年延長し令和2年度も継続。台風災害を踏まえて地域防災力の向上が追加された。

地域選択テーマでは、生活の足（地域交通）の確保・充実と広域DMOの設立促進は今年度で終了。新たに若者のU I Jターン就業の促進を追加。

地域重点テーマでは、移住・定住、若者向けUターン就職の促進については、移住・定住・つながり人口づくりの促進に改めた。信州プラスチックスマート運動の推進を追加。

支援金の募集期間は、年明け1月6日～2月3日。12月19日に飯田合同庁舎で説明会を開催する。

*11月県議会における議論について

11月議会の質問の多くは台風19号関連によるもの。地元選出の県議会議員の質問について取りまとめたので、参考としていただきたい。

(2) 飯田建設事務所

→ 報告事項なし。

(3) 飯田保健福祉事務所

9～11月のウォーキング大賞について、南信州地域での出場チームの各成績を報告。

来年は多くの方が少しずつ歩数を増やすことを評価するような、トリプルセブンという賞、トリプルシックスという賞などを設定する。来年度も多くの方の参加をお願いしたい。

5 当面の日程について

1月14日（火） 広域連合会議 11:00

6 閉会…16:00